

# 後の学年につなげる平仮名指導

伊藤正統 | 広島大学附属三原小学校

## 1. はじめに

第二学年以上で教えていると、第一学年で丁寧に指導したにもかかわらず、整わない文字を書く子どもが少なくない。指導時だけで終わらない後につなげる指導を心がけていきたいと考える。

## 2. 五十音表を縦、横に読む

一年生の子どもは、「早く書きたい、読みたい」、「書けること、読めることを知ってほしい」との思いが強い。授業を始めると、「何て読むか知っているよ」、「書けるよ」といった声が教室のあちらこちらから聞こえてくる。こうしたときは、細かいことにとらわれず、どんどん進めていく。

第三学年の辞書指導の際、「あいうえお」は言えるが、「あかさたな」と組み合わせるとたどることができないために、辞書引きに時間がかかる子どもが見られる。まだ、たどれていればよいが、時には「次は何だったけ?」と次の文字が出てこない子どもも見られる。

そこで、この機をとらえて、五十音表の「あいうえお」の縦と「あかさたな」の横とを繰り返して読ませる。全員ですらすら読めるようになると、縦、横を列ごとに行を変えて読ませたり、一人一文字ずつたどって読ませたりして一人ひとりが読めるか確認していく。そうすることで、文字の読み方だけでなく、文字の配列をつかむことができるようにする。

## 3. 五十音表を使って書く

読むことができるようになったら、次は書くことに挑戦させる。読むことができるので、子どもの中で文字と読みがつながっている。「あ」と言えば、全員が五十音表の「あ」を見ることができる。

五十音表の下には、五十音表と同じだけのマスを用意しておく。上下を見合わせて、文字を書き写すことも大事な学習である。三・四年生で、書き写せなかったり、合っていないのに○をしたりする子どもを見かける。文字の隣に書くのでもよいが、子どもの実態に合わせて、書く場所を工夫したい。



▲平仮名の五十音表と練習用のマス

まずは、「あ」の書き方を黒板に板書しながら、表の使い方を説明する。その上で、「あ」は右上に上がる文字であることをとらえさせ、曲線

の中に○（おだんご）を描いて見せる。そして、子どもに、下のマスの表と同じ位置に「あ」を書くよう促す。机間指導しながら、できている子には○を付け、できていない子には、書くマスや文字の形を指導する。

次に、子どもに『あ』のように○（おだんご）がある文字はどれかと尋ねる。そうすると、子どもは、「の」と言ったり、「わ」と言ったりする。そこで、「次は『の』を書いてみよう」というように促し、書かせる。その後、「の」を板書しながら、「ちゃんと○（おだんご）が入っていますか」と尋ねる。「はい」と言う子、消して書き直す子がいるだろうが、机間指導しながら、できている子には○を付け、できていない子には、書くマスや文字の形を指導する。

## 4. おわりに

一年生の指導が一年生だけで終わらない力にしていくために何が必要か、先を見据えて、必要な事項を取り入れながら、繰り返し指導していきたい。